

魂の職人

マルコ セッリット (*Marco Sellitto*)

エンジニアから楽器制作家に

ロベルタ・デ・ヴィート 著



自分の仕事に対する情熱、マニアックまでの材料選択、これによって完璧なギターが生まれるのです。

3歳のときにクラシックギターの魅惑の響きに心を奪われ、その音そしてメロディーの魔法にかかってしまった。こう言うその人は、イタリアならず世界に名をなす楽器制作の最高権威マルコ・セッリットです。

ナポリ出身、マルコは彼のギターへの情熱と自身の学歴とをミックスさせています。テキサスの大学にて音響工学を専攻し卒業しましたが、常に彼の心の中には自分の愛する楽器の技術面以上に、かつて魂を奪ったあの楽の音が存在していました。このような経緯で彼はナポリ高等音楽院でヴィンチェンツォ・アマービレ教授の元でクラシックギターの勉強をはじめることになるのです。

その勉強を数年する中で、かつて心に残ったあのメロディーの単なる音だけでなく、その魔力を再現するに値するギターに出会うことはありませんでした。そして40歳近くになった頃、彼は工学士その他の称号を脇に置き、手工ギターの製作をはじめることになりました。芸術作品として、特に材料の選択に大きな力を注ぎながら、楽器制作のプロとしての活動をはじめたのです。

近代の工場生産品からかけ離れた、価値のある貴重な材料を好んで使っていますがそのとおり、彼にとってはモダンな楽器制作は興味を示す価値もなく、それは単に手工業のレベルで芸術レベルに達していないと判断するからです。

カゼルタにある音の芸術の寺院と呼ぶにふさわしい彼の工房で彼は芸術作品と呼ぶべき、一本一本素材、音色の異なるギターを制作しており、それゆえ彼のギターにはそれぞれ固有の名称がつけられています。制作番号0、すなわち2005年に最初に作られた作品は「La Dolorosa」と呼ばれています。

セッリットのギター制作に注ぐ情熱は、ギターのストラディヴァリと呼ばれた作家アントニオ・デ・トーレスにインスピレーションを受けています。

優れた楽器であるには、使用材料の選択が大きく左右します。それは選び抜かれた木材、古くから伝わる自然材料の塗料なのです。

彼の繊細な感覚は、彼の楽器制作に革新をもたらしています。それは楽器のすべてのエレメントの分析、解釈を通して それぞれのエレメントの振動をチューニングし、木材の名前(樹種)、また伝統的な使用方法に頼るのではなく、彼はその部分に使用する材料の音響特性を元に使用しているのです。塗料は蜂のプロポリス、ターメリック、アロエ、塗料の硬度を上げる乳香など自然の素材を多く使用しています。

この楽器制作のマエストロは「一本のギターを作り始める前に、各部材となる木材のサンプルをいろいろな塗料で塗装し、各塗料に相当する音響効果、音響透過速度を測定することによって部材の音響の管理制御を行う」と事あるごとに説明しています。

彼の楽器はピエラ・ダドーモ、ルイジ・アッタデーモ等の一流の音楽家に使用され、注目を受け、全世界で評価を受けています。世界的なクラシックギター会の権威アンジェロ・ジラルディーノ教授は彼に関して「...彼の仕事の中には単なるクラフトマンシップだけでなく楽器作家としての教養のある優しさを感じる」と述べています。

彼のギターには選り抜かれた高級材のみ、また塗料はプロポリス、乳香、アロエなどの原料を使用しています。

マルコ・セッリットは、クラシックギターの分野では彼以前には唯一アントニオ・デ・トーレスが成功していた、楽器の音色を決定するに重要かつ複雑な要素を定義することに間違いなく成功していると言えます。彼独自の「外形パターン」を使用し既存のいかなる楽器にはないオリジナルな音色を実現化しています。